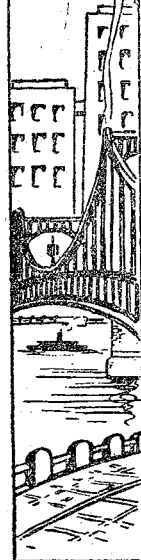


論 說



交通政策要綱を評す

田 中 好

政府は二月十四日の閣議で、交通政策要綱を決定して之を發表した。日滿支三國の政治經濟乃至は文化を發展せしめ三國の共存共榮を圖ることが、東亞新秩序建設の目標である以上は、先づ以て三國の交通政策を樹立して、彼我相通することが肝要であるは言を俟たぬ。併し此のことたる政治の常識であるに拘はらず往々にして等閑に附せられてゐたのは私の遺憾とする點であつた。實際從來の内閣は色々の政策を強調した事があつても、交通政策に關して方針を決定した事はなかつたのである。従つて我國が經濟的に進出すべき地理的運命を持つ地域に對し他國の經濟的進出を傍觀

するの外なかつたのは頗る遺憾とするところである。今回遅延ながら、交通政策を確立するに至つたことは三國共榮の爲めに喜ぶべきである。

二

要綱に依れば皇國を核心とする大東亞の綜合的有機的交通體制の確立を期するにあつて、其の手段として一、交通施設の計畫的整備擴充を圖り、二、之が運用の統制を強化し、三、交通に關する行政諸機構の整備統合を圖ることにあるものゝ如くであつて、其の企圖するところに異論はないのである。

固より日滿支三國交通を策するに方つて、交通の中心を何國に採るべきやは先決問題であるが本要綱に於ては皇國を核心とすべきことを明確にした。蓋し近衛聲明に依つて明かなる如く、東亞建設の指導的使命を有するものが我國を指して他にないからであつて、夫れが我國に與へられた責務であるからである。併しながら支那滿洲にしても矢張り獨立國家である以上は彼にも彼独自の交通政策を持つるのであつて、我國が之を強權的に拘束することは許されない。従つて彼をして我國の政策に順應し協力一致せしむる爲めには、彼をして首肯せしむる外交々涉を要すべきは勿論である。

夫れには三國の共存共榮を目標として指導的考察の下に爲さなければならぬ。然るに之が任に方べき機關は興亞院であるが、興亞院現代の組織と之を構成する人物とを以て克く夫れをなし遂げ得るであらうか頗る懸念に堪へないのである。昔から餅は餅屋と言はるるやうに、我國内交通行政

を主管する各省各局こそ交通に關する識見を具備するものであつて、寄合世帯式な興亞院に夫れを求むることは無理である。故に、交通を専門とする各省各局をして其の本來の職務である國內交通政策と睨み合せて、支那滿洲に於る交通計畫を樹立せしむることが得策である。殊に要綱が我國を核心として交通政策を樹立せむとする趣旨からしても當然である。此の意味に於て興亞院の組織を再吟味する必要があらう。

### 三

日滿支三國が從來より各自の立場に於て建設した交通施設を、今俄に統一することは容易の業ではない。殊に夫々の國內自身に於てさへも統一されてゐない現狀に於て尙然りである。故に交通の跋行的狀態を調整することは喫緊の要務であつて、本要綱が之に言及してゐるのは當然である。併しながら如何にして之を實現するか、日滿支經濟建設要綱の目標としたところを達成せしむるが爲めには、夫れより先に交通施設を完備せなければならぬ。本要綱に於ては其の方途を明確にしていない。

或は、日滿支の交通施設に關しては概ね日滿支經濟建設要綱の定むる所に依ると規定してゐるか、同要綱が定めたやうに所要の資金は皇國之を援助して實現せしむるやうである。併しながら政府の方針が北支開發會社や中支振興會社等をして之を援助せしめむとする趣旨でありとせば、吾々

は其の實現の成否を疑ふのである。蓋し右兩會社現在の業績と會社創立當初に於ける政府の説明とを對照して觀察するときは餘りにも懸隔があつて既定方針を裏切るからである。是は一例に過ぎないのであるが。中支に於ける鐵道を經營する華中鐵道會社が自己の計畫を實現せむとするに方つては、中支振興會社の指揮を受くるを要する外興亞院の干涉を受け、而も振興會社と興亞院の意見一致せざる爲めに折角の事業も宙に迷つてゐる状態や、鐵道會社が經營するを至當と認むる事業に對し、振興會社が之を自ら經營せむとする事業の爭奪戰を演じてゐるやうな醜態を耳にする吾々は從來の計畫が間違つてゐることを痛感するからである。故に中支北支等に對する從來の方針を再吟味して交通事業の經營に關しては獨立した一會社を創設し交通機關は擧げて本會社に經營せしめ、中間機關を認めざる方針を採ることが適當である。其の他指導援助の手段方法等の選擇を誤るときは、折角の方針も畫餅に歸し東亞建設の實を擧げ得ないこととなるから、特に政府の考慮を要求して已まなう。

## 四

陸海の交通連絡の問題に就て見ると陸上には比較的良好的鐵道はあつても、之と海上とを連絡する港灣設備が不完全なものがある。反之港灣設備は尙利用の餘裕を有するも之に連絡する鐵道設備の不備なものがある。是等に對しては其の施設に就て海陸一致せしめて最高度の能率を發揮せ

しむることが焦眉の急務である。本要綱も固より夫れを考へたのであらう、各港灣の使命に應じ重點的に諸設備の整備擴充を圖るといつてゐるが、曾つて我國に於て見た如く、鐵道は鐵道、港灣は港灣と相互に連絡なく施設しては有機的交通體制を確保することは出来ない。

今支那大陸に於ける鐵道の狀況に就て見ても、其の普及狀況は我が要求する産業分野の方針に適合してゐるものが尠い。又其の構造にしても區々に互つてゐて鐵道夫れ自體の相互交通連絡に不十分である。殊に夫等支那鐵道の建設に關しては歐米資本に依るものが多い。是等の資本關係と本要綱に依る關係とを如何に解決するやの問題も起る筈である。之が解決は難事中之難事であらう。併しながら之を解決せなければ眞に東亞交通の完璧を期し得られないのである。

要綱に於ける鐵道對策としては、幹線輸送力の擴充及輸送系路上の隘路の補強を主とし、新線の建設は差當り緊急なるものに止むと言つて、改主建從主義を採つてゐるが、果して適當であらうか。支那に於ける鐵道普及の狀況を見ると百平方キロ當り〇一人、人口一萬人當り〇二であつて、我國が百平方キロ當り七、四人口一萬人當り三七であるに比較して餘りにも貧弱と言はねばならぬ。従つて天然資源の開發を目的とする交通政策に於ては、せめて我國の現狀位に普及せしむる計畫の下に改建並立政策を採らなければならぬ。蓋し支那現在の鐵道を改良するに重點を置くときは、三國經濟建設の目的は達せられないからである。

陸運能力の強化を圖る爲め主要道路の建設改良を策したことは當然であるが、自動車道路の計畫

を樹立してゐないのは頗る遺憾である。言ふ迄もなく近代に於ける交通政策を按ずるに方つては鐵道と自動車道路とを睨み合せて立地計畫の下に兩者の任務の優劣を判定して其の經濟的適格を有するものを採るべきは當然である。唯だ鐵道運送に協力し若くは夫れを助勢するものが道路であると云ふが如き舊式の觀察を爲してゐる嫌のあるのは、長期に互る交通政策を按ずるに方つて策の得たものではない。故に自動車道路網と鐵道網とを檢討して交通の完璧を期すべきである。

支那の内地を旅行して感ずることは、クリークの利用價值である。到る處にクリークがあつて小船に依る交通を利用し、夫れは殆ど我國の自轉車交通と同一の作用をしてゐるのに驚くのである。支那に於ける小部落がクリーク沿岸に發達した史實に徴しても亦支那に於ける鐵道貨物收入がクリークに依る小運送に依つて支へられてゐる現實に徴しても、クリークに依る小運送を閉却することとは出來得ない。殊に其の價值が自轉車以上のものなるに鑑みるときは、クリーク、小流湖水又は運河施設は、支那國內交通機關として最も留意すべき交通機關である。然るに本綱要に於ては之が對策に付論究してゐないのは、瑕瑾とでも評すべきであらう。

## 五

海運の問題に就ても陸上運送との關係を考慮すべきは當然であるが、海運に關する政府當局の計畫したものゝ説明を聞くと寔に寒心に堪へないものがある。歐洲大戰が如何に結末を附けるかは

豫斷し難いとしても、戦後に於ける東亞共榮圏の交通は遂に米國の造船計畫に支配さるゝに非ざるを憂ふるのである。本要綱が我が南方政策に依る海運を閉却せる嫌あるに對照して一層憂慮するのであるが獨り日滿支三國に止まらず、東亞共榮圏内に於ける海運政策を一日も早く樹立せむことを切望して已まない。

航空其の他に就ても所論したい點も多々あるが、夫等は紙面の都合上後日に譲るとして、私の年來主張してゐる交通省の設置に就て本要綱が唯だ交通に關する行政諸機構の整備統合を圖ると言ふだけで何等具體的方策を示してゐないのは頗る遺憾である。固より行政機構の改革は獨り交通上の機構改革に止まらない、一般的问题であるが、我國が核心となつて支那滿洲の交通政策を實現せむとするに方つては、其の核心たるべき我國の交通行政の整備を必要とし之が爲には何と云つても交通省を設置して交通行政を統合せなければならぬ。單純な關係者の連絡會議等を以てしては策の得たるものではない。殊に自分の主張する交通省設置案は一般行政機構の改革と分離して實行し得る案なるに於てをやである。曩に述べた興亞院組織の改革に關聯して特に當局の再考を求めて已まなう。